

增收増益めざす日本精鉱

～原材料高騰下の戦略～

三酸化アンチモンの国内最大手である日本精鉱は、2007年度の連結業績が減収減益となり、02年度以降の連続増収増益が途絶えた。製品需要は比較的底堅く推移したもの、原料価格の上昇や田高などが響いた。08年度は増販や日本アトマイズ加工への出資比率を上げたことによる増収増益を見込んでいるが、原材料価格の高騰など事業環境は厳しいまま。現在の需要動向や今期計画などを岩山社長に聞いた。

岩山社長に聞く

—連続増収増益が
5期で途絶えた。

「中間決算発表まで
は売上高、利益とともに
前年を上回っていました。
しかし下期はサブプラ

イムローン問題の深刻化による金融市場の混乱で田高が進行、それ

に伴う為替差損が発生したほか、株価下落による退職年金資産の運用悪化も影響した。減価償却費の制度変更に伴う費用負担も響いた」

「ただ製品の需要が大きく落ち込んだわけではなく、日本のアン



連続法で生産効率向上を

騰している。

「中国の元高で輸出価格が上がっているのが一因だ。それから北京五輪を迎える危険物の輸送や使用に対する規制が強化されており、鉱山で使つ爆薬が制限され、その分、生産が減っている。元高を考慮するとい6000ドルは仕方がないが、思惑で

大きい落ち込んだわけではない。日本のアン

比で2・5%減と微減だった。国内市場が飽和状態にあるため大きな変動はない。減少しても落ちていない。一方たのは海外向けのOE M製品だ。日本アトマイズ加工の金属粉は5%増加した」

—足元の需要動向はどうか。

「国内は毎年4月は特惠関税の関係で輸入品が入り市場が混乱す

るようだが、在庫調整も進み年後半には回復していくだろう」

—原材料のアンチモニ地金が過去最高値の16500ドルに高

まっている。原油が高騰しているため樹脂の値段も上がり、難燃助剤であるアンチモニの添加比率を考えるとコストの比重は大きくなっている。難燃助剤のアントラチアミン地金の輸入は従来比で2倍になつた。2月に試験を終え

—07年度減益の一因だった円高は原料のアンチモニ地金の輸入価格を引き下げる効果がある。

「原料代に限っていえばコストは下がるが、海外に輸出する製品は手取りが減少す

る。さらに中国の三酸化アンチモニはドル建てのため低価格の製品が国内に入ってくる。

—今期の事業計画は。

「アンチモニ製造のトータルフローの確立

—日本アトマイズ

加工の完全子会社化を実現して、海外に輸出する製品を増産のための建屋を建設する」

「まだアンチモニ酸ソーダはすでに設備が完成しており生産能力は従来比で2倍になつた。2月に試験を終えていま拡張を進めている方針だ」

「またアンチモニ酸ソーダはすでに設備が完成しており生産能力は従来比で2倍になつた。2月に試験を終えていま拡張を進めている方針だ」

「まだアンチモニ酸ソーダはすでに設備が完成しており生産能力は従来比で2倍になつた。2月に試験を終えていま拡張を進めている方針だ」

「まだアンチモニ酸ソーダはすでに設備が完成しており生産能力は従来比で2倍になつた。2月に試験を終えていま拡張を進めている方針だ」